

<まちを訪れる人々のホットスペース><障がい者就業訓練の場>
2つの機能を持つコミュニティ施設 福祉喫茶『砂時計』

社会福祉法人足利市社会福祉協議会

機関名	社会福祉法人足利市社会福祉協議会		
所在地	栃木県足利市通2丁目2637番地 いぶきビル1階		
電話番号	0284-20-2011		
地域概要	(1)管内人口 160千人	(2)管内商店街数 26商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 25商店	
	(3)空店舗率 21.4%	(4)大型店空き店舗数 0店舗	
	足利市通2丁目商店街振興組合		
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）
・障害者ふれあいサロン事業
総事業費 16,500千円

【事業実施内容】

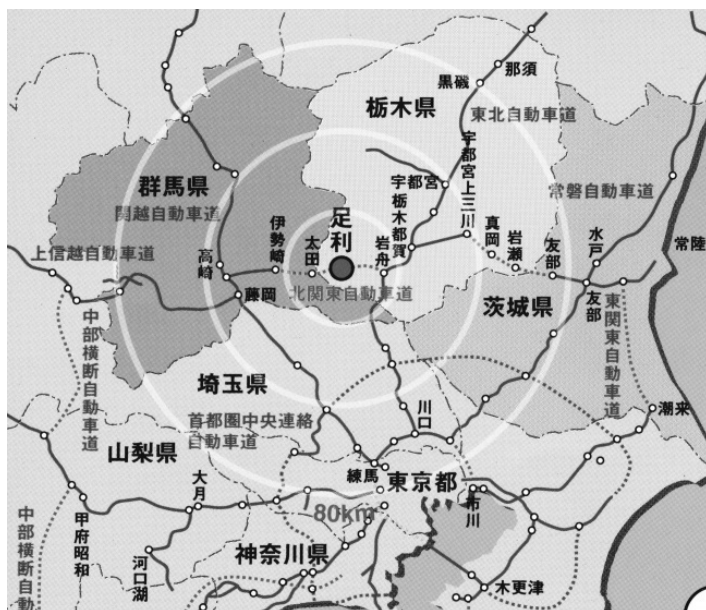
1. 背景

足利市は栃木県の西南端に位置し、市の中央を渡良瀬川が流れ古くから織物のまち・文化のまちとして知られている。市内にはたくさんの重要文化財が随所に残されており、また市街地から日光連山へと続く山並み一帯が県立自然公園に指定されるなど自然と文化の調和した美しいまちで「東の京都」とも呼ばれている。

足利市全体の商業、特に中心市街地では商店数・年間商品販売額ともに減少傾向にある。平成15年の調査によると、中心市街地の商店街の空き店舗率は19%となっており、5店に1店は空き店舗とい

う結果である。小売店の撤退のみならず、銀行さえも統廃合のため撤退している状況である。

このような状況の中、本市では中心市街地事業として「市民と行政の協働によるまちづく



足利市の位置（足利市役所ホームページより）

り」を推進している。さまざまな施策を展開してきたが、代表的なものとして「足利市立美術館」「まちなか遊学館」の開館、「活き街工房α」への補助事業が挙げられる。今後も様々な施策が計画されているが、商業者・商店街が活気を取り戻さなければ本当の意味での活性化にはつながらない。そのための手段として、新しいコミュニティ施設での人々の交流による活性化を行うこととした。

本事業によるコミュニティ施設には、2つの要素を取り入れることとした。まず、「喫茶スペース」とすることで、商店街を訪れるさまざまな人々のホットスペース、溜まり場としての活用である。もうひとつは、絶対数が不足している障がい者就労訓練の場としての活用である。

2. 事業内容

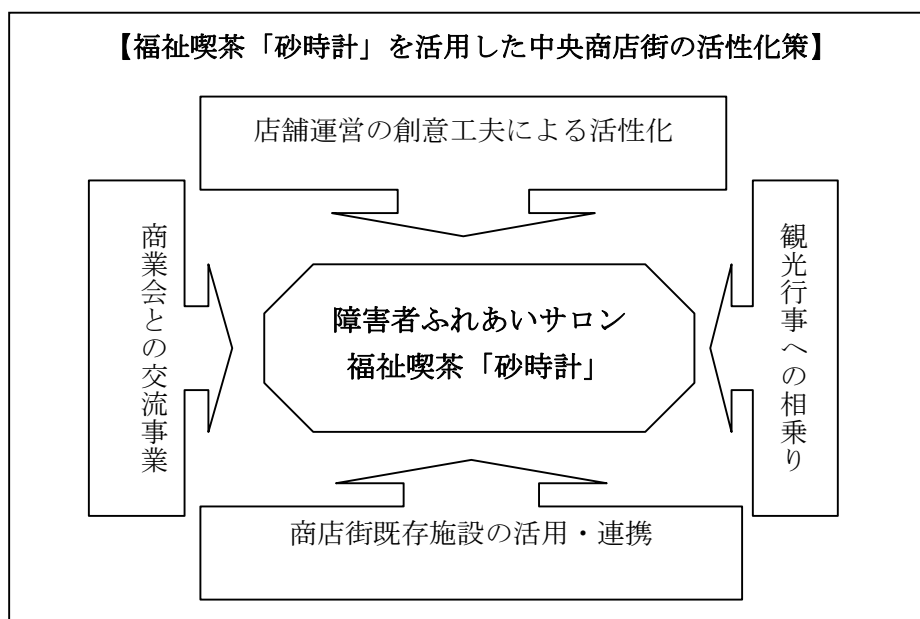
中央商店街である足利市通2丁目商店街の空き店舗（いぶきビル1階空き店舗）を活用してふれあい交流施設（「障害者ふれあいサロン事業」）を設置。

(1) 施設概要

- ①実施機関：足利市社会福祉協議会及び足利市通2丁目商店街振興組合
- ②事業名：障害者ふれあいサロン事業
- ③店舗名：福祉喫茶「砂時計」
- ④オープン：平成16年11月21日
- ⑤営業時間：10:30～18:00
(定休日 火、水曜日)
- ⑥実施体制：障害者ふれあいサロン事業実施委員会8名(商店街関係者2名、商工会議所関係者1名、社会福祉法人関係者2名、足利市関係者2名、民間コンサルタント1名)で構成、年3回程度の委員会開催。



福祉喫茶「砂時計」





足利市内各施設・観光地の位置が記された「砂時計ゆっくり散歩MAP」

(2) 喫茶コーナーの設置及び運営

商店街に集う人たちのふれあい施設として、喫茶コーナーを設置しコーヒー等を提供した。

(3) 障がい者施設で製造したパン・菓子等の販売

喫茶コーナーの一角に障がい者授産施設で製造したパンやケーキ、しいたけなどを販売し、商店街の活性化に寄与するとともに、障がい者に対する理解も深めた。

(4) 情報提供

ボランティア情報、社会福祉協議会情報、足利市観光情報などの情報提供を発信した。

(5) 利用状況等



オープン時のチラシ

<福祉喫茶「砂時計」来客数・売上>

(単位: 人、円)

	11月	12月	1月	2月	合計
来客数	422	665	581	561	2,229
喫茶売上	117,450	204,900	166,550	152,800	641,700
授産製品売上	95,690	164,210	152,480	143,920	556,300
総売上	213,140	369,110	319,030	296,720	1,198,000

【 効 果 】

1.来街者の行動

事業地周辺には今まで落ち着いてくつろげる場所がなかったため、来街者は目的の場所で用事を済ますとすぐに車で移動してしまっていたが、福祉喫茶「砂時計」がオープンしたことにより来街者の商店街での滞在時間増につながった。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. PR

オープン当初は順調な売上をみせていたが、現状では徐々に売上が減少している。来客を待ってはいつになっても売上増にはいたらないため、今後どのように対応をしていけばよいか検討中である。関係機関への広告媒体の配布、会議等の会場でPRさせていただくなどの具体策を検討している。

2.メニュー内容の検討

集客を図るため、魅力あるメニュー内容を充実させることが課題となる。限定食分でランチタイム定食や、季節に応じた限定メニュー等を検討する。

3.商店街既存施設の活用・連携

足利市の中心市街地は空き店舗を活用した施設が数多く存在している。障害者ふれあいサロンを含めた空き店舗活用施設のマップ「砂時計ゆっくり散歩MAP」を作成・活用して商店街の活性化を図る。このマップを各施設や公共機関等に設置することで、多くの人目にふれさせ、まちなかに人の流れを作り出すことが必要である。MAPを設置してもらうだけでなく、関連施設（まちなか遊学館、活き街工房α、など）でお互いに宣伝・紹介展示できる事が望ましい。

4.観光資源の活用

①観光関連施設の活用

「史跡足利学校」「鏝阿寺（ばんなじ）」「足利市立美術館」「太平記館」という足利市の観光のメインとなる施設が中心市街地にある。そこで来訪者にもう一步足を伸ばしていただき、福祉喫茶「砂時計」で休憩してもらう工夫も必要である。

②観光行事とのタイアップ

花火大会や足利祭りなど多くの観光行事にあわせ、柔軟な施設運営をしていくことも必要である。

③観光パンフレットへの掲載

可能な限り、観光パンフレットに福祉喫茶「砂時計」を掲載していただき、来訪者に認知してもらうことが必要である。

④回遊サインの活用

街なかに設置した回遊サインは、観光客の回遊を目的に設置されたものであるが、回遊サインのルート内に福祉喫茶「砂時計」もあることから、もっと積極的にアプローチができるものと思われる。

【事業の実施ポイント】

開始しようとする場所の状況を十分に検討し、消費者ニーズに応えられるような内容のものを考え実施するべきである。

【関連URL】

社会福祉法人足利市社会福祉協議会HP <http://www.ashikagashakyo.or.jp/index.htm>